

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書

資料 1

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

※各事業の自己評価は、別紙参照

基本方針	基本目標	自己評価(達成度)別事業数					自己評価・今後の方向性	新潟市スポーツ推進審議会 (スポ柳都にいがたプラン推進会議) (ご意見・ご要望等)
		A	B	C	D	E		
健康スポーツ	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	7	7	7	0	0	<p>○総論 令和元年度の終盤に新型コロナウイルス発生の影響があったにもかかわらず、指標を概ね達成し順調に取り組まれている。もう1段階数値を上げるには、競技団体や関係機関とのさらなる連携により、参加意欲が湧くような仕掛けやコロナ対策に万全を期すことが必要。アイスアリーナについては、新型コロナウイルスの影響でイベント中止や利用者の減少が続いている。早急に具体的な対策が求められる。 コロナ禍で、活動自粛による心と体の健康に及ぼす影響を考慮した事業計画の策定を心掛けていく。</p> <p>○子どもについて 少年少女スポーツ大会や氷上スポーツ体験学習は指標を少し下回ったが、競技団体や学校との連携は取れていることから、今後についての具体的な方策を各競技団体と協議していきたい。</p> <p>○高齢者について 「総おどり体操」を通じて、高齢者の健康や生きがいづくりの機会を提供した。この流れの定着とともに、関心が薄い方への普及を図るため、関係機関・団体との協力を一層強化する。</p> <p>○障がい者について 競技としてスポーツを行う障がい者が指標を少し下回ったが、参加できるスポーツ大会自体が少ないことも一因と考えられる。スポーツをしてみようという機会拡大の点で、この第3期実施計画策定時の意見を踏まえて、体育施設での競技用具の貸し出しを順次すすめるとともに普及のための支援者向け研修を実施していく。</p>	<p>○学校との連携が欠かせない事業があることから、教育委員会との連携をより密にしていきたい。</p> <p>○コロナ禍で、高齢者のからだを動かす機会の減少が著しい中で、フレイル等の増加が懸念される。感染状況が終息しない中で、どのような施策を講じるかが問われていると言える。</p> <p>○子どもの事業計画においてもコロナ禍での活動自粛の状況は否めない。活動自粛が子どもたちの心と体の健康に及ぼす影響を考慮した事業計画を策定しなければならない。</p> <p>○障がい者も同様に、心身の健康に及ぼす影響を考え、何らかの手立てを打つ必要があると思われる。</p> <p>○少年少女スポーツ大会や氷上スポーツ体験学習については、競技団体が主催できるよう協議していきたい。</p>
支えるスポーツ	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	3	5	3	0	0	<p>○スポーツに親しめる環境づくりとして、ハード面では引き続き、必要な補修工事を行いながら中長期的な大規模改修や集約化の検討を進めていく。</p> <p>○ソフト面では、スポーツ推進委員やジュニア層指導者に対する資質向上の機会の提供し、地域における人材育成を推進するとともに、引き続き地域で気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを促進する。</p>	<p>○スポーツ庁が取り組んでいる「部活動改革」において、地域スポーツ指導者を担い手として育成することが2025年までの具体的施策として掲げられている。市においても人材バンクの創設やスポーツ指導者人材育成プログラムの実施が必要不可欠であるため、早急に取り組むことを期待する。</p> <p>○未来ポイント:スマートウェルネス事業は、高齢者にとって体を動かす機会を増進させるよい動機づけとなる素晴らしい取り組みと評価する。</p> <p>○スポーツ活動の現地見学と協議の場がセットとなる機会を設けていきたい。</p>
スポーツ情報ネットワーク	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。	0	0	2	0	0	<p>○スポーツ情報の発信については、全体でホームページへのアクセスが減少した半面、新型コロナウイルスの影響で施設を休館したこともあり、3月に限りアクセスが急激に増えた。このことから、利用に関わる情報は迅速かつ適切に提供していかなければならない。</p>	<p>○アウトドアでの県内のウォーキングスポットや絶景ポイント等の情報発信、ユーチューブを利用した健康関連エクササイズの実施などは、コロナ禍ならではの取り組みと言える。</p> <p>○市役所関係課との情報交換や協力の強化を研究していきたい。</p>

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書

資料 1

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手

※各事業の自己評価は、別紙参照

基本方針	基本目標	自己評価(達成度)別事業数					自己評価・今後の方向性	新潟市スポーツ推進審議会 (スポ柳都にいがたプラン推進会議) (ご意見・ご要望等)
		A	B	C	D	E		
競技スポーツ	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。	1	1	0	0	3	<p>○ジュニア強化事業は、指標を上回って達成した。補助金を有効的に活用し、スポーツ協会と事業対象団体が共通認識の下で強化が図られている。</p> <p>○氷上スポーツ育成事業は、アイスアリーナの活用促進にもつながる、教室や体験会を開催した。今後は、競技力向上を目的に競技団体との連携を密にしていく。</p> <p>○コロナの影響により、スポーツ指導者講習会や障がい者スポーツ推進事業などが開催中止となったが、令和2年度の指導者講習会をオンラインで実施するなどの改善を図っている。</p> <p>○引き続き、指導者の資質向上に資する取組みを推進していく。</p>	<p>○ジュニア強化事業は、スポーツ協会と事業対象団体がより連携し、スポーツの普及振興と競技力の底上げをしていただきたい。スーパージュニア育成事業も、ボクシングの成果があり、柔道、バドミントンの今後の成果を期待する。</p> <p>○アイスアリーナの活用で、氷上スポーツ育成事業も、教室や体験会の開催が活発である。今後は競技力向上とともに、一般層、そして、児童、生徒へのさらなる関心の広がり、体験利用等を、教育委員会との連携を図りながら進めて欲しい。</p> <p>○国際大会出場者等激励金や障がい者スポーツ推進事業の継続並びに充実により、多くの選手が全国大会に出場できるようになることを期待する。</p> <p>○今後の指導者研修会についてはオンラインでの対応が可能となる準備が必要。オンラインによって広い地域から多くの方の参加も可能になる。</p> <p>○スポーツ指導者講習会では、ユニバーサルな観点からテーマ設定を望む。例えば、発達障害を含む障がい児・者、女性や性的マイノリティといった、選手たちの中にある多様な人々への適切な指導対応への理解。そして、いまだ根絶されない暴力に関することも重要なテーマとなる。</p> <p>○激励金では、「障がい者スポーツ」一括りではなく、他同様に大会の種類を明記したほうがわかりやすい。</p> <p>○障がい者スポーツ推進事業で、ナショナルチーム合宿の誘致は、「みるスポーツ No.3」に含め、障がい児・者のスポーツ参加に、より寄与する事業を検討すべき。</p>
みるスポーツ	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。	3	2	2	0	0	<p>○プロスポーツの観戦招待とともに、応援方法の研究開発も必要。選手との交流や指導機会の増加など、市民に、感動や興奮、ふれあいの機会をさらに創出してほしい。</p> <p>○プロスポーツについては、チーム成績が観戦マインドに関わり、また、コロナの影響により対象試合が中止となったことから、指標を少し下回ったが、オリンピックムーブメント事業をはじめ、市内スポーツイベントの参加者数は概ね指標を上回って達成するなど、市民に、感動や興奮、ふれあいの機会を創出することができた。今後は、東京2020大会の直前合宿受入による経験値の積み上げや国際交流の促進を図り、さらなる国際・全国大会の誘致・開催につなげるとともに、イベント開催を通じて、市内のみならず市外の地域とも交流を促進する。</p>	<p>○東京2020大会の直前合宿受入による国際交流の促進、国際・全国大会の誘致・開催も必要。大学の運動部合宿の積極的誘致と体育施設の見直し、市民との交流による効果とスポーツ環境の充実につながる。アイスアリーナができたことの効果も参考にして、大型体育館や合宿用の宿泊施設の増加を図らなくてはならない。</p> <p>○プロ野球球団の招致も、来てもらうという発想から、プロ球団が行きたいと思わせる作戦が必要。</p> <p>○プロスポーツのコロナ禍での中止は致し方ないが、他のイベントに於いて、指標を上回っての達成は大いに評価できる。今後、コロナ禍で不確定要素が多い中、柔軟な、臨機応変の対応が一層求められる。</p> <p>○特定のチームや地域、限られた範囲ではなく幅広い人の交流事業への参加を促していただきたい。広報活動が重要。</p> <p>○今後はコロナ禍にあってイベント開催は難しい中、その後を見据え、オリパラの影響も見ながら新たな方法論を模索していただきたい。</p> <p>○誘致した全国大会の多くが、比較的マイナーな競技大会というのが興味深い。地方の強みを生かし、メジャーな大会以外の誘致を積極的に行い、「新潟を使っていただく」ことで、交流人口の増加につなげていただきたい。</p> <p>○子どもたちのスポーツを通じた国際交流経験は貴重であり、今後も何らかの形でつないで頂きたい。</p>
スポーツ医科学支援体制	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。	0	1	0	0	0	<p>○スポーツ医科学支援体制については、にいがたスーパージュニア育成事業である3団体を対象として事業を実施し指標のとおり達成し、引き続き、強化指定選手を医科学面でさらにサポートしていく。</p>	<p>○スポーツ医科学支援体制の充実は、スーパージュニア育成事業やジュニア育成事業のほか、全ての競技団体の選手強化や怪我の防止のために、不可欠である。新潟県医科学スポーツセンターとの連携とともに、市としてのスタッフの増員、システムの見直しも必要。</p> <p>○県医科学センターの一層の活用を推進していかたと願う。施設の有効活用に向けて、システム運用の一層の充実と合わせて、市民への情報共有、周知に関連したPRの充実も図っていただきたい。</p> <p>○スポーツ現場では子供たちの怪我が日常的に起きており、救急処置についての知識や実技を学ぶ機会を定期的に作ることも検討していただきたい。</p> <p>○コロナ禍であらゆる世代にて運動不足、身体機能の低下が起きている。子供たちがスポーツを楽しむ場、高齢者が自主的に運動をする場を積極的に創設するとともに、スポ柳都にいがたの理念を市民に分かりやすく伝えるための「キャッチフレーズ」「スローガン」などを作ってはいかがか。</p> <p>○医科学サポート体制がみえにくい。トレーナー派遣の効果を検証し、相談窓口の設置や集学的体制など本市ならではのモデル構築が望まれる。</p> <p>○強化指定選手への個別対応のみならず、学校やクラブなど集団的な検診・相談体制も望まれる。</p>

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。		
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標	R1実績	(参考)H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
1	新潟シティマラソン	平成29年度にデンカビッグスワンスタジアム発～市陸上競技場着の新たなコースに変更,制限時間も延長(5→7時間)するなど大幅なリニューアルを行った。 令和元年度は,開催日を3連休中日の10月13日(日)に再度移動。日本陸連公認コースのマラソン(42.195km)とファンラン(11.0km)の2種目を設定し,マラソン8,575人,ファンラン4,131人のエントリーを得た。	エントリー者数 12,000人	エントリー者数 12706人 市内:7,123人 県内:2,753人 県外:2,830人 (うち国外:74人)	エントリー者数 12,005人 市内:6,954人 県内:2,528人 県外:2,523人 (うち国外:85人)	A	開催日を大会リニューアル前最大の強みであった3連休中日にしたことが大きく影響し,目標を上回ることができた。	7	新型コロナウイルス感染症の影響を受け,大会の開催を1年延期し,2つの代替イベントを実施する。 (1)新潟シティマラソンリモートチャレンジ,(2)同10000mタイムトライアル
			44,797	25,992	41,874				
2	少年少女スポーツ大会	児童の健全育成や親睦,コミュニケーション能力の育成を図ることを目的として,昭和40年より開催している。 令和元年7月13日～8月4日 種目:野球・サッカー・ミニバス・バレー 参加チーム総数:304チーム	エントリーチーム数 野球:75チーム サッカー:81チーム ミニバス:144チーム バレー:27チーム	エントリーチーム数 野球:67チーム サッカー:68チーム ミニバス:140チーム バレー:29チーム	エントリーチーム数 野球:71チーム サッカー:78チーム ミニバス:139チーム バレー:28チーム	C	少子化などの影響と思われるがその年により参加チーム数に変動はあるものの,概ね例年どおりのチーム数を維持しており,次代を担う青少年の心身の健全育成を図る大会となっている。	3	これまで夏休み期間を利用し開催してきたが,昨今の大会時期における気温30度を上回る真夏日が続いたことにより熱中症の危険性が高いと判断し,市と各競技団体で協議を重ね,R2年度より8月下旬～9月下旬に開催日を変更する。
3	早起き野球大会	早起き野球を通して,市民が積極的にスポーツに親しみ,スポーツ振興と相互の親睦を図ることにより豊かな社会生活に寄与することを目的に開催した。 【第54回新潟市早起き野球大会】 期日:令和元年5月19日～7月28日 会場:ハードオフエコスタジアム新潟 外9会場 参加チーム数:132チーム	エントリーチーム数 160チーム	エントリーチーム数 132チーム	エントリーチーム数 148チーム	C	エントリーチーム数については全国的に減少傾向にあるが,本大会は日本一の規模を誇っている。	2	参加チームの維持・増加につながる対策を検討し,競技方法及び運営方法を改善するなど大会の魅力向上に努める。
4	新潟シティライド	自転車を有効に活用して市民の健康の維持・増進とサイクリングスポーツの普及・促進を図ることを目的として,市内をサイクリングしながらエイドステーションで新潟ならではの食を堪能できるイベントを開催した。 令和元年6月2日(日) ロングライド(120km)・ミドルライド(70km)・ショートライド(33km)	エントリー者数 ロングライド:550人 ミドルライド:50人 ショートライド:50人	エントリー者数 ロングライド:631人 ミドルライド:112人 ショートライド:49人	エントリー者数 ロングライド:617人 ミドルライド:107人 ショートライド:50人	A	今年度もミドルとショートはエントリー開始後すぐに定員に達し,ロングも受付開始から1週間以内に定員に達していることから,引き続き人気の高さがうかがえる。	2	この人気を維持するため,一度限りの参加ではなくリピーターとなってもらえるよう,魅力のあるイベントにする。
5	新潟ヒルクライム	岩室地域の魅力を全国に発信し,交流人口の拡大を図るとともに,サイクリングスポーツの振興を目的として,弥彦競輪場での1マイルタイムトライアルと岩室温泉をスタートし弥彦山スカイラインを麓から頂上まで自転車で駆け上がるヒルクライムの2種目で開催した。 令和元年8月31日(土) 1マイルタイムトライアル:弥彦競輪場4周回(距離1.6km) 令和元年9月1日(日) ヒルクライム:岩室温泉から弥彦山頂(距離7.6km/5.3km)	エントリー者数 500人	エントリー者数 493人	エントリー者数 584人	C	H30年度に引き続き1マイルタイムトライアルを実施したが,参加者数は前年度より減少した。	2	ヒルクライム,タイムトライアルともに参加者数が減少した。H30年度に新設した1マイルタイムトライアルをより広く周知し,さらなる参加者数増を図っていく。 (令和2年度は会場の都合上,タイムトライアルの実施なし。)
			900	900	900				

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。		
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標	R1実績	(参考)H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
6	氷上スポーツ体験学習 推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の底辺拡大を図るため、市内小学校の校外活動時のバス送迎に係る経費と施設利用料金を助成した。	実施校数 70校	実施校数 55校(58件)	実施校数 52校(53件)	C	引き続き周知時期・事業開始時期を早め、実施の機会の拡大に努めたが、数値目標を下回る結果となった。 しかし、コロナウイルス感染防止の観点から実施をとり止めた学校があったにもかかわらず、昨年度(52校)よりも実施校数が増加し、多くの小学生に体験をしてもらうことができた。	1	各校の年間計画の策定に配慮し、周知・事業の開始期を引き続き早め、実施の機会を増やしていく。 実施する学校が一定であることから、新規に本事業を導入してくれる学校の発掘が必要であり、取り組みが必要と考える。
			2,665	1,773	1,911				
7	市民綱引き大会 (スポーツ協会)	冬期間のスポーツとして、綱引きを通じて地域スポーツの振興と市民相互の親睦を図るとともに冬場の健康維持・増進を目的に気軽に参加できる種目として開催した。 ・一般の部(混成の部) ・小学生の部(低・中学年の部、高学年の部) 対象:低中学年 4年生以下 高学年 5年生以上	エントリーチーム数 一般の部:16チーム 小学生の部:50チーム	エントリーチーム数 一般の部:21チーム 小学生の部:56チーム	エントリーチーム数 一般の部:14チーム 小学生の部:49チーム 一般と小学生(第30回大会記念種別):16チーム	A	常連チームや新規のチームありで、例年多くの市民の間で冬場のスポーツイベントとして定着しており、多くの参加者を保っている。大会開催前より、各地域で練習に組み込み活動を行うことから、冬場の健康維持・増進に寄与している。 近年8行政区全てからチームの参加があり、次年度以降も新規チームの参加も期待できる。	1	健康づくりや地域間の交流の場として、当初の目的は達成している。 実行委員会の開催時期見直しにより地域スポーツ団体等に早期の周知を図るほか、協賛企業と協力しながら参加者の拡大・内容の充実に努めている。
			224	224	220				
8	健康・体力づくりのつどい (スポーツ協会)	市民が健康で、いつでも・どこでも・いつまでも、気軽にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目的に、かけっこ教室や逆上がり教室、体力測定のほか普及振興を目的にラグビー体験会など市民ニーズに対応したイベントを開催した。	参加者数 2,200人	参加者数 1,700人	参加者数 1,650人	B	一昨年に続き天候不順のため、参加者は昨年並みの参加数となったが、事業は概ね進捗していると考えられる。ラグビー体験会は、普及活動の一環として、ワールドカップの開催期間中に合わせ小学4年生以下の体験会を開催し好評を得た。 スポーツ少年団たすきリレーマラソンでは、イベントを通じスポーツ少年団登録への啓発とともにチーム間交流の機	1	より魅力ある市民参加型イベントにするために、競技団体等と連携を図るほか、企業協賛の拡充を図るなど、地域と一体となって事業の充実に努めている。
			1,300	1,285	1,158				
9	市民サッカー大会 (スポーツ協会)	生涯スポーツの普及と市民相互の親睦を図り、健康の維持増進を目的に、サッカー大会を開催している。	エントリーチーム数 90チーム 参加者数:1,250人	エントリーチーム数 97チーム 参加者数1,260人	エントリーチーム数 95チーム 参加者数1,240人	B	選手の高齢化などもありカテゴリーを見直し初心者でも参加しやすく取り組みにより指標を上回って達成している。	2	市民の健康づくりとスポーツの振興に貢献していることから、当初の目的はほぼ達成している。 参加者層が高齢化していることから、安全性の観点からもカテゴリーについて引き続き検討していく。
			500	500	500				
10	市民総合体育祭 (スポーツ協会)	春季と秋季の年2回、スポーツ協会加盟団体がスポーツの普及振興と競技力向上を目的に開催をしている。	開催種目数 春季:20種目 秋季:30種目	開催種目数 春季:26種目 秋季:28種目	開催種目数 春季:24種目 秋季:35種目	A	市民総合体育祭を主管する加盟競技団体と連携し、市民の健康増進と競技力の向上が図れた。 天候により屋外種目が中止となり秋季はやや下回った。	2	競技の普及・振興ならびに競技力の向上に寄与することから継続して実施する。また、初心者向けのカテゴリーの整備や未実施の加盟競技団体へ大会開催の声掛けを行う。
			1,350	1,140	1,254				
11	新潟県障がい者スポーツ 大会開催事業	新潟県とともに全国障害者スポーツ大会の派遣選考大会である「新潟県障害者スポーツ大会」を開催した。	参加者数 個人競技:6種目・ 750人 団体競技:5種目・ 270人	参加者数 個人競技:6種目・ 627人 団体競技:5種目・ 161人	参加者数 個人競技:6種目・ 744人 団体競技:5種目・ 261人	C	個人競技、団体競技ともに参加者は年々減少傾向にあり、目標を下回ったが、障がいのある人が参加できるスポーツ大会が少ない中で、日頃のスポーツトレーニングの成果を競い合う良い機会となっている。	2	大会の周知を行い、参加機会の拡大に努める。あわせて、障がい者スポーツ普及へ向けた取り組みとして、市内体育施設での競技用具貸出しを行う。
			768	768	768				

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。		
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った
		1・・・充実 4・・・縮小 7・・・その他	2・・・現状維持 5・・・廃止・休止
		3・・・内容見直し 6・・・完了	

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標	R1実績	(参考)H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
1	シニアはつらつにいがた 総おどり事業 (高齢者支援課)	「総おどり体操」について、体験会の開催や指導スタッフの派遣を実施するとともに、希望者を募りにいがた総おどり等に参加することで、高齢者が健康づくり・介護予防・生きがいづくりに気軽に取り組める機会を提供した。また、指導者養成講座を開催し、市民による自主的な広まりを推進した。	体験会等参加者数 延7,700人	体験会等参加者数 延8,729人	体験会等参加者数 延7,530人	A	定期講習会への参加が定着してきていることに加え、ライセンス取得者を派遣して行う講習会への参加が増加した。	2	健康づくり等への関心が薄い方への普及を図るため、関係機関・団体との協力を一層強化して活動を進めていく。 指導者養成講座によりライセンスを取った方の活動の場を広げる。
			3,403	2,995	3,236				
2	全国健康福祉祭事業 (高齢者支援課)	新潟市予選会で選出された選手に対し、全国健康福祉祭わかやま大会に参加するための派遣に関する費用の助成を行い、参加者の費用負担を軽減した。	派遣人数 133人	派遣人数 86人	派遣人数 106人	C	ソフトボール(定員15名)やサッカー(定員20名)をはじめ、人数の多いチームが辞退したため、目標よりも低い数値となった。 派遣期間が4泊5日であることが選手にとって参加への負担となっている。	2	予選会を主催している新潟県社会福祉協議会と協議しながら、予選会の参加種目を増やすなど、より多くの高齢者の参加につながるように周知するとともに、派遣方法についても柔軟な対応を進める。
			6,812	5,253	5,483				
3	いきいき健康づくり 支援事業 (保健所健康増進課)	一人ひとりの目的に応じた運動目標値(有酸素運動+筋トレ)を提供した。無理なく安全に運動の継続ができるよう支援した。	なし	参加者数 108人	参加者数 690人		事業を終了するため、数値目標を定めなかった。評価不能	5	本事業では、参加者の拡大が見込めないため、段階的に縮小し、令和元年度で終了。 働く世代の運動習慣定着として、健康経営支援とあわせてウォーキングチャレンジを実施していく。
			5,996	5,935	14,398				
4	ウォーキング チャレンジ事業 (保健所健康増進課)	働き盛り世代の運動習慣定着を図るため、企業・事業所内でチームを組んで参加し、参加者自ら歩数を記録することを通して、歩く機会の増加や定着にチャレンジする。	参加事業所数 72事業所	参加事業所数 92事業所	参加事業所数 57事業所	A	他の事業所向けの健康づくり事業と併せて奨励したことにより、多くの企業から参加していただいた。	2	働き盛り世代の運動習慣定着を図るため、参加事業所の増加を目指して取り組みを継続する。
			167	153	142				
5	新潟市障がい者大運動会 (障がい福祉課)	障がいのある方もない方も一緒にスポーツを行うことを通じ、親睦と友情の輪を広めながら「共に生きる喜び」をわかちあい、障がいや障がいのある人への理解を深めるため、「新潟市障がい者大運動会」を開催した。	参加人数 750人程度	参加人数 700人	参加人数 700人	C	平成30年度に引き続き、屋内開催としたことで、天候に左右されず事業を実施することができた。	5	新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、令和2年度及び令和3年度の開催について、中止を実行委員会で決定した。 令和4年度以降の開催については、令和3年度の実行委員会で検討する。
			1,089	1,019	1,175				
6	学校施設開放事業 (教育委員会 地域教育推進課)	生涯スポーツの振興を図る目的に、学校教育に支障のない範囲で、市立の学校施設等(体育館、武道場、プレイルーム等)を開放する。	164校で実施 (小106・中56・東特別・明鏡高)	164校で実施 (小106・中56・東特別・明鏡高)	165校で実施 (小107・中56・東特別・明鏡高)	B	学校施設を開放し、市民の健康増進と競技力の向上を図ることができた。	2	学校施設を開放することにより、市民の健康増進と競技力の向上に繋がっているため。
			30,147	29,321	35,884				

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。		
基本目標	子どもから高齢者,障がい者までが生涯にわたって,スポーツ・レクリエーションを通じて,健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標 予算額(単位:千円)	R1実績 決算額(単位:千円)	(参考)H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
7	体力向上ジャンプアップ 推進事業 (教育委員会 学校支援課)	市内全小・中学校の取組を集約し,冊子にまとめ,全小・中学校に配付した。他校の取組を知ることで,自校の取組の改善に生かすことにつながった。	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し,情報提供 11	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し,情報提供 6	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し,情報提供 10	B	計画通り実施できたため。	2	各校の取組を共有することで,取組の見直しにつながるから。
8	子どもの体力向上指導者 養成研修会への 体育教員派遣 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に,市内小・中学校から2名の教員を派遣した。研修後,派遣した教員が指導者となり,市内全小学校,市内の中学校(30人以上)を対象に伝達講習会を実施した。	幼稚園,小・中学校から3名の教員を派遣 180	小学校から2名の教員,指導主事1名,合計3名を派遣 156	幼稚園,小・中学校から3名の教員を派遣 220	B	計画通り実施できたため。	2	新学習指導要領全面実施に向けて,新学習指導要領の理解を深めるために必要であるから。
9	小学校幼稚園 体育指導者研修会 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に派遣した教員が指導者となり,市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者:1回目53人(北区,東区,中央区,江南区から各校1名) 2回目55人(秋葉区,南区,西区,西蒲区から各校1名) 0	119名の参加(6月開催) 0	106名の参加(6月開催) 0	A	目標に若干届かなかったが,計画通り実施することができた。	2	学習指導要領に即した授業実現のために,このような実技講習会は有効であるから。
10	中学校保健体育指導者 研修会 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に派遣した教員が指導者となり,市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者28人(西蒲区,西区,南区,秋葉区の学校から各校1名) 0	28名の参加(11月開催) 0	29名の参加(中央区,南区,西区,西蒲区の学校から各校1名※中等含む 8月開催) 0	B	計画通り実施できたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために,このような実技講習会は有効であるから。
11	中学校柔道実技講習会 (教育委員会 学校支援課)	市内全中学校から各校1名参加し,講習会を実施した。	対象者31人(帰宅,東区,中央区,江南区各校1名)※中等含む 0	参加者31名 0	参加者58名 0	B	計画通り実施できたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために,このような実技講習会は有効であるから。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ: スポーツを支える環境を構築します。		
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標	R1実績	(参考)H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
1	スポーツ施設の管理運営・整備	スポーツの普及振興を図り、市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与するため、本市が設置するスポーツ施設の管理運営を行う。また、スポーツ施設の運営が円滑に行われるよう必要な補修工事を行う。	施設利用者数 4,000,000人	施設利用者数 約3,700,000人	施設利用者数 約4,010,000人	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月から施設を休館したことによる。それまでは順調に推移していた。	2	市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活のため、スポーツ施設の管理運営及び必要な補修工事を行う。
			-	-	-				
2	スポーツ施設の整備・改修方針の検討	昭和39年開催の新潟国体に合わせて整備された施設など老朽化が進んでいる施設もあり、大規模な改修や更新、施設の集約化を計画的に行う必要があることから、スポーツ施設の整備・改修方針の検討を行う。	集約化方針の検討	集約化方針の検討	集約化に向けての情報収集	B	「新潟市公共施設の種類ごとの配置方針」において、スポーツ施設の今後の配置の方向性や運営改善の方向性を策定した。	2	令和3年度末に改定される「新潟市財産経営推進計画」において、各区スポーツ担当課などとともに、スポーツ施設の再編案の検討を進める。
			0	0	0				
3	スポーツと音楽功労者表彰事業	スポーツと音楽芸能の振興及び発展を目的に、功績が顕著な個人または団体を表彰している。 表彰数: スポーツ関係490件(令和2年3月31日現在)	実施	実施 (スポーツ関係9名)	実施 (スポーツ関係8名)	B	市スポーツ協会を通じ競技団体などからの推薦に基づき、スポーツ・音楽功労者選考会議に諮り、適正に表彰を行なった。	2	今後も、本市のスポーツと音楽芸能の振興及び発展に尽くした功労者を表彰し、スポーツを支える環境づくりを進める。
			400	347	260				

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。		
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標	R1実績	(参考)H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
4	スポーツ推進委員の活動推進	地域スポーツの推進役となるスポーツ推進委員の資質向上を目的に市スポーツ推進委員連盟自主研修会を開催した。	研修会開催数 2回	研修会開催 2回	研修会開催 3回	B	5月に推進委員全員を対象とした自主研修会を実施。アジャタやフロアカーリングなどの実技演習を行った。新年研修会と合わせ年2回の研修会を開催。	4	新型コロナウイルス感染予防のため、自主研修会は中止。新年研修会は対策を講じて実施する予定。
			0	0	0				
5	スポーツ振興会の育成・支援	スポーツ振興会の中心的役割を担うマネージャーの育成と資質向上のため研修会を開催した。	研修会開催数 1回	研修会開催 1回	研修会開催 1回	B	新潟医療福祉大学山崎史恵教授を講師に招き、アスリートの試練と輝き-カウンセリングの現場から-と題し、スポーツカウンセリングの現状についての講演会を開催。	2	今後も市スポーツ推進委員連盟などと連携し、充実した研修会が開催できるよう内容を協議し、実施していきたい。
			0	0	0				
6	スポ柳都にいがた指導員養成研修会	ジュニア層の指導者の養成・資質向上のため、研修会を開催した。本研修会修了者を少年少女スポーツ大会の指導者資格の一つとしている。	参加者数 100人	参加者数 78人	参加者数 49人	C	目標には届かなかったが、昨年度の参加者アンケートをもとに、講演テーマ・講師を選定し、新たにポスターやチラシを作成するなど広報に力を入れた結果、昨年度をはるかに上回る参加人数となった。	2	今後も参加者のニーズに沿った講演内容を検討し実績のある講師を迎えるなど、魅力があり指導者の資質向上のための一助となる研修会を実施していく。
			97	97	14				
7	スポーツボランティアの育成	10月13日(日)に開催予定だった新潟シティマラソン2019において、救護や給水、手荷物返却などの業務に従事するボランティアに目標を大きく超える674人の申し込みがあった。	シティマラソン学生・企業ボランティア数 100人	シティマラソン学生・企業ボランティア数 674人	シティマラソン学生・企業ボランティア数 598人	A	専門学校や高校、民間企業などに働きかけを行い、中学生を含む学生(505人)及び企業(169人)から申し込みがあった。	5	新型コロナウイルス感染予防と、シティマラソンの開催が延期により、ボランティア活動も休止とする。
			0	0	0				

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。		
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標	R1実績	(参考)H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
1	スポーツ少年団の育成 (スポーツ協会)	スポーツ少年団の普及・育成および活性化を図るため、登録業務や大会等を実施した。	登録団体数 120団体	登録団体数 125団体	登録団体数 125団体	A	少子化等の影響から、団体の合併・解散が全国的に加速しており、本市においても減少傾向にあるが前年並みの登録数であった。 少年団登録団体は市内スポーツ施設において学校料金が適応されることから例年の登録団のほか新規登録団体もあり、他市町村と比べても現状維持又は団体数の減少は緩やかであるとする。	1	スポーツ少年団活動は、地域におけるスポーツ活動の拠点として、スポーツの普及振興、青少年の健全育成に寄与していることから、今後も大会・指導者研修会等を継続的に実施していく。 指導者の育成にあたっては、有資格指導者の新制度への円滑な移行の観点から引き続き各団体に対し連絡を図っていく。
2	未来ポイント (スマートウェルネスシティの推進) (保健所健康増進課)	健康づくり行動への動機づけと継続を支援するインセンティブ制度。 健康づくりに関する講演会やイベント、また体育施設の個人利用で、市共通商品券またはバス乗車ポイントに交換できる「未来ポイント」をバスICカードやおサイフケータイに付与した。	参加者数 16,000人	参加者数 15,669人	参加者数 13,029人	C	事業開始5年目を迎え、新規参加者は減少し、目標を下回った。	5	高齢者層には一定の効果がみられたが、無関心層や働き盛り世代を含め、より多くの市民の参加が得られる事業に見直し、令和2年度で未来ポイント付与を終了する。
3	公共交通の強化及び 利用促進 (スマートウェルネスシティの推進) (都市交通政策課)	新バスシステムの段階的な機能向上により、過度な自動車利用から公共交通利用への転換を図り、公共交通利用による外出機会の増加を促す施策を展開する。	実施	実施	実施	B	◇モビリティ・マネジメントの推進 ◇「シニア半わり」の継続実施 ◇BRTの改善に係る調整・検討 ◇各施設の機能向上 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営	1	◇モビリティ・マネジメントの推進の一環として、学校での出前講座の実施や各種イベント等で公共交通の利用啓発に資する広報物の配布 ◇「シニア半わり」の継続実施 ◇BRTの改善に係る調整・検討 ◇PR活動の強化 ◇各施設の機能向上 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営
4	自転車利用環境の整備 (スマートウェルネスシティの推進) (土木総務課)	歩行者の安全確保、自転車の交通事故の削減、自転車利用の促進を目的に、自転車走行空間の整備、自転車利用ルール・マナーの啓発を推進した。	・自転車走行空間整備の延伸(20.0km) ・自転車利用に関する啓発のため、学校等へのチラシ送付1回、HPやツイッターの活用	・自転車走行空間整備の延伸(21.4km) ・自転車利用に関する啓発のため、学校等へのチラシ送付(1回)	・走行空間整備(30.5km) ・学校等へのチラシ送付(1回) ・HP(渦ちやり通信)やツイッターの更新	A	自転車走行空間整備は、予算調整を早めに行うことで、当初の目標以上の整備を行うことができた。	1	自転車走行空間整備を引き続き推進していくほか、自転車ルール・マナーの啓発活動の充実を図る。
			135	18	10				
			9,117	8,156	8,033				
			331,407	269,354	281,016				
			64,725	64,478	73,137				

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。		
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標	R1実績	(参考)H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
1	目指せオリンピック! 医科学サポート事業 (スポーツ協会)	にいがたスーパージュニア育成事業の実施にあわせてスポーツトレーナー等を派遣し、傷害予防やコンディショニング調整を目的に競技力の向上を図った。	スポーツトレーナー派遣競技団体数 2団体(柔道・ボクシング)	スポーツトレーナー派遣競技団体数 3団体(柔道・ボクシング・バドミントン)	スポーツトレーナー派遣競技団体数 3団体(柔道・ボクシング・バドミントン)	B	にいがたスーパージュニア育成事業の対象である3団体を対象として事業を実施し、傷害予防・コンディショニング調整等により競技力向上に寄与した。 また、コンディショニングの調整についてはスポーツトレーナーのほか県医科学センターを活用しながら更なる競技力向上を図っている。	1	競技団体とのヒアリングを実施して課題や現状について共有を図りながら、オリンピックや国際大会等に出場・活躍する選手を継続的に輩出していくため強化指定選手を医科学面で更にサポートしていく。
2	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図る。	システム利用件数 30,000件	システム利用件数 29,393件	システム利用件数 29,667件	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月から施設は休止となったため、実績は落ち込んでいる。	2	市民の利便性のため、施設予約システムの運用を継続し、周知に努める。
3	スポーツ振興課 ホームページ	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行う。	アクセス数 1,000,000件	アクセス数 約910,000件	アクセス数 約945,000件	C	昨年度実績と比較すると、減少傾向ではあるものの、若干持ち直している。時季に偏りはなかった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため施設が休止となった3月はアクセスが激増した。	2	新型コロナでわかったとおり、利用制限などにかかる情報は、迅速かつ適切に提供していく。 シティマラソンやヒルクライムなどのイベントページへのアクセスが多いことから、情報の更新や充実に努める。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	競技スポーツ: 競技力の向上を推進します。		
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標	R1実績	(参考)H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
1	ジュニア強化事業 (スポーツ協会)	<p>新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍し世界へ羽ばたく選手を育成するため、加盟競技団体と連携し、ジュニア世代(小・中・高校生)を対象とした強化事業を実施した。</p> <p>◆ジュニア強化事業 スポーツの振興と競技水準向上を目的に、加盟団体のうちジュニア選手の強化事業を実施している27競技団体に対して、係る経費の一部を助成して支援を行った。</p> <p>◆にいがたスーパージュニア育成事業(以下、SJ育成事業) ボクシング、柔道、バドミントンの3種目について、新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍する選手の輩出を目指し、オリンピック等の国際大会で活躍した選手やコーチを招へいして通年(年10回程度)による選手強化を行った。</p> <p>◆氷上スポーツ育成事業 国内外で活躍する選手や講師を招聘し、フィギュアスケート、アイスホッケー、カーリングの教室・体験会を行った。</p>	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 2事業 氷上スポーツ育成事業実施数 3団体	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業 氷上スポーツ育成事業実施数 3団体	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業 氷上スポーツ育成事業実施数 3団体	A	ジュニア強化事業は各団体を対象に実施状況や課題等のヒアリングを行い、双方ともに共通の認識を持って強化を図っている。 SJ育成事業は3競技を継続として実施している。特にボクシングでは全日本女子選手権入賞者の成果も出ており今後も期待できる。 カーリング、アイスホッケー、フィギュアの氷上スポーツ育成事業においては、国内外で活躍する選手や講師を招へいした。	1	ジュニア強化事業については、スポーツの普及振興や競技力の底上げを担う事業であることから、継続して実施していく。 SJ育成事業については、オリンピック予選会に出場するなど成果が出ていることから競技団体と連携を図り強化を継続していく。 氷上スポーツ育成事業は、ジュニア層の競技力向上を目的に競技団体と連携を図り実施する。
2	スポーツ指導者講習会 (スポーツ協会)	本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした研修会を開催した。	講習会開催数 1回 100人	講習会開催数 2回(I部・II部) 定員60人	講習会開催数 2回(午前・午後)77人	E	前年度より2部制で構成。今回のテーマは、「ジュニア期のケガと熱中症の対策」と題して開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	1	多様化する市民や競技団体のニーズに対応するため、複数テーマの実施や日程を分けて開催するなど引き続き検討する。
3	国際大会等出場者激励金	本市を代表して国体及び海外での国際大会に出場する選手、監督等に激励金を支給し、また、全国大会に出場する小中高校生に対しても激励金を支給した。	実施	国体出場者 147人 国際大会出場者 26人 小・中・高校生全国大会出場者 361人 障がい者スポーツ 10人	国体出場者 177人 国際大会出場者 17人 小・中・高校生全国大会出場者 536人 障がい者スポーツ 77人	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、3月に行われる大会の大分部分が中止となった。	2	今後も運用を継続し、スポーツの奨励と振興を図る。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	競技スポーツ: 競技力の向上を推進します。		
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標 予算額(単位:千円)	R1実績 決算額(単位:千円)	(参考)H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
4	全国障がい者スポーツ大会選手派遣事業	令和元年10月に開催が予定されていた第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」へ新潟市代表として選手を派遣する予定だったが、台風のため派遣を中止した。	個人競技 18人 10,082	派遣なし (予定:個人競技 19人 団体競技 8人) 6,000	個人競技26人 団体競技 7人 12,477	E	選考会となる県大会出場選手が減少傾向にある中、目標を上回る規模の市選手団を派遣する予定だったが、台風の影響により派遣を中止した。	2	今後も障がい者の社会参加やスポーツに取り組むきっかけを作るため、より多くの方に出場機会を提供し市選手団を全国障害者スポーツ大会に派遣する。
5	障がい者スポーツ推進事業	共生社会の実現に向け、また、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツに取り組むきっかけや競技力の向上及び障がいの理解促進のため、パラリンピアンによる講演会や障がい者スポーツの体験会を開催する。あわせて障がい者スポーツのナショナルチーム合宿を誘致・支援する。	講演会・体験会の参加者数 100人 1,200	講演会・体験会開催中止 0	講演会・体験会の参加者数 50人 1,365	E	市内体育施設職員等を対象とする障がい者スポーツ講演会・体験会を予定していたが、コロナウィルス感染拡大の影響を受け中止とした。	2	障がい者スポーツの普及へ向け、体育施設における競技用具の整備・貸出しを実施する。あわせて、体育施設職員等へ向けた講演会・体験会を実施する。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。		
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標 予算額(単位:千円)	R1実績 決算額(単位:千円)	(参考)H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
1	ドキドキ・ワクワクスポーツ ふれあい促進事業	<p>プロスポーツチームを通じて、夢と感動を共有し、青少年の心身の健全育成とスポーツ文化の醸成を図るため開催した。</p> <p>1. サッカー教室開催 期日:令和元年6月16日～令和元年11月17日まで全8区で開催 会場:亀田総合体育館ほか</p> <p>2. サッカー指導者派遣 期日:平成31年4月1日～令和元年12月18日 49回 会場:デンカビッグスワンスタジアムほか</p> <p>3. サッカー観戦招待 期日:令和元年5月4日～令和元年11月9日まで10試合 会場:デンカビッグスワンスタジアム</p> <p>4. 野球観戦招待 期日:令和元年6月29日～8月16日まで4試合 会場:HARDOFF ECOスタジアム新潟</p> <p>5. 男子・女子バスケットボール観戦招待 期日:令和元年12月14日～令和2年2月16日まで4試合 会場:新潟市東総合スポーツセンターほか</p>	<p>サッカー教室参加者数 300人</p> <p>サッカー指導者派遣数 182人</p> <p>サッカー観戦招待者数 20,000人</p> <p>野球観戦招待者数 85組</p> <p>バスケットボール観戦招待者数 70組</p> <hr/> <p>15,955</p>	<p>サッカー教室参加者数 498人</p> <p>サッカー指導者派遣数 94人</p> <p>サッカー観戦招待者数 7,241人</p> <p>野球観戦招待者数 125組</p> <p>バスケットボール観戦招待者数 90組</p> <hr/> <p>14,400</p>	<p>サッカー教室参加者数 486人</p> <p>サッカー指導者派遣数 148人</p> <p>サッカー観戦招待者数 10,564人</p> <p>野球観戦招待者数 135組</p> <p>バスケットボール観戦招待者数 90組</p> <hr/> <p>17,248</p>	C	<p>サッカー観戦招待者数が前年に引き続き、目標未達となった。J2への降格やJ2での成績不振による観戦者数自体の減少が、申込者数の減少に影響している。また、新型コロナウイルス感染拡大のため、観戦招待を予定していた3月の2試合が中止になり、当初予定していた観戦招待を実施できなかった。</p>	3	<p>観戦招待について、令和元年度から一度に申込できる枚数を4枚から2枚に変更したが、着券枚数は半減せず、微減に抑えることができた。その分、新規の申込者が増えたと考えられる。しかし、申込者数は目標値に未達のため、今後も告知方法等の改善が必要である。</p>
2	プロ野球招致推進事業	<p>官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致し、観戦招待事業や、横浜DeNAベイスターズのラミレス監督のトークショーを開催した。</p> <p>令和元年5月8日(水) 横浜DeNAベイスターズ vs 読売ジャイアンツ</p> <p>令和元年9月3日(火) 読売ジャイアンツ vs 中日ドラゴンズ</p>	<p>プロ野球公式戦開催数 2試合</p> <hr/> <p>1,209</p>	<p>プロ野球公式戦開催数 2試合</p> <hr/> <p>933</p>	<p>プロ野球公式戦開催数 1試合 (横浜vs巨人)</p> <hr/> <p>266</p>	B	<p>ハードオフ エコスタジアム新潟のオープン以来、一定数のプロ野球公式戦を招致・開催しており、新潟でプロ野球を楽しむ環境が整っている。</p> <p>開催機運醸成のためのトークショーを実施し、県民シートとして福祉施設関係者を観戦招待した。</p>	2	<p>プロ野球公式戦の開催実績を重ねるとともに、観戦招待事業をはじめとする興行支援を行い、機運の醸成を図りながら将来的な球団誘致も視野に入れるとともに、交流人口の拡大、地域活性化につなげていく。</p>
3	大会、合宿等誘致の推進	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などのナショナルチーム事前・直前合宿や障がい者スポーツの全国大会を誘致・開催した。</p> <p>◆国際大会 第22回国際ユースサッカーin新潟</p> <p>◆全国大会 第1回女子硬式野球新潟大会、第14回日本車椅子カーリング選手権、第20回全日本選抜選層軟式野球大会、高松宮杯全日本軟式野球大会(2部)、第20回全国中学選抜卓球大会、平成30年度風間杯第62回全国高等学校選抜レスリング大会</p> <p>◆合宿 女子硬式野球、女子硬式野球(U18)</p>	<p>国際大会数 2 全国大会数 7 ナショナルチーム合宿数 3</p> <hr/> <p>3,000</p>	<p>国際大会数 2 全国大会数 6 ナショナルチーム合宿数 2</p> <hr/> <p>1,000</p>	<p>国際大会数 1 全国大会数 6 ナショナルチーム合宿数 2</p> <hr/> <p>2,618</p>	C	<p>ワールドカップ6連覇を達成した女子硬式野球日本代表の合宿や日本車いすカーリング選手権大会の開催により、新潟市の知名度の向上、スポーツを通じた交流の推進や地域経済の活性化を図ることができた。</p>	1	<p>平昌冬季五輪のロシア・フィギュアスケートの合宿の実績を基に、市内での合宿実績を積み上げることに、今後のオリンピック・パラリンピック直前合宿や国際・全国大会の誘致・開催につなげる。</p>

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。		
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。	A・・・指標を上回って達成 C・・・指標を少し下回った E・・・未着手	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った

事業別自己評価

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	R1数値目標			達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	R1実績 決算額(単位:千円)	(参考)H30実績 決算額(単位:千円)				
4	氷上スポーツイベント 開催事業	国内のトップスケーターや県内選手によるフィギュアスケート演技発表会等を開催することで、トップスケーターの技術に触れる機会を提供するとともに、市内・県内及び近県選手を中心とした競技会等を開催することで、フィギュアスケートの発展と技術レベルの向上を目指す OMGC三菱ガス化学アイスアリーナCUPの開催 令和元年8月31日(土)、9月1日(日) OTHE ICE2019新潟公演 練習観覧招待 令和元年7月30日(火) ○アイスアリーナイベントの開催 令和2年4月19日(日) ※エキシビジョンに出場する県内選手の大会日程を考慮し、開催日を変更したため、令和元年度の開催はなし。 →新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止	OMGC三菱ガス化学アイスアリーナCUP 120人 ○THE ICE2019新潟公演 30人 ○アイスアリーナイベント 580人	OMGC三菱ガス化学アイスアリーナCUP 161人 ○THE ICE2019新潟公演 30人 ○アイスアリーナイベント ※令和元年度実施なし	○アイスアリーナイベント 656人	A	新潟市アイスアリーナを拠点とした競技会を開催することで、市内・県内をはじめ、近県のフィギュアスケートの発展と競技レベルの向上に寄与している。	3	競技会については、今後も施設や関係機関と協議・連携をし、大会内容の充実を図っていく。アイスアリーナイベントについては、知名度のあるゲストスケーターを迎えるなど、より多くの方に楽しんでいただける魅力のあるイベントにする。
5	オリンピックムーブメント 事業	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて市内の機運醸成を図るため、オリンピックムーブメントの普及・啓発を目的としたイベントを開催した。 実施主体 新潟市文化・スポーツコミッション オリンピック教室 令和元年9月20日(金)(中之口中学校) オリンピックデーラン 令和元年9月21日(土)(デンカビッグスワン)	参加者数 1,000人	参加者数 1,124人	参加者数 1,063人	A	オリンピック教室については、オリンピックによる自身の経験に基づいたオリンピック精神を学ぶ機会を提供することができた。 オリンピックデーランについては、オリンピックと市民の交流の機会を提供することができた。	5	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての機運醸成としては一定の役割を終えることから事業を廃止。引き続き、ナショナルチーム合宿誘致事業において、オリンピック等との交流を通じたスポーツ振興を図る。
6	国際ユースサッカー in新潟の開催	国際サッカーイベントを通じたスポーツ交流により、各国青少年の相互理解及び国際友好親善を深めるとともに、新潟を国内外に大きくアピールした。海外からはヨーロッパ、南米からそれぞれ1チームずつ参加した。 令和元年7月13日(土)～15日(月) デンカビッグスワンスタジアム 他 参加チーム 海外招待(メキシコ、ボスニアヘルツェゴビナ) U17代表 U17日本代表 U17新潟選抜	観戦者数 7,000人(3日間)	観戦者数 8,600人(3日間)	観戦者数 7,000人(3日間)	A	出場選手からは多くのA代表選手が選出されている。また、県内高校の全国大会での活躍など時代を担うこの世代に注目が集まりつつある。	2	ユースのトップチームによるレベルの高いゲームを本市を含む県内各地で開催することにより、サッカー機運の醸成及び地区サッカー協会の運営能力の向上に大きな役割を果たしている。 ※昭和63年からの全国ユースサッカー大会を前身とし、平成9年より「国際ユースサッカーin新潟」として毎年開催し、令和元年度で23回目を迎えた。
7	日韓交流少年サッカー の開催	日韓の小学生世代における国際交流と競技力の向上を目的に開催し、韓国蔚山市サッカー協会と新潟市サッカー協会の相互交流が図られている。 令和元年7月25日(木)～28日(日) 新潟市	交流回数 1回	交流回数 1回	交流回数 1回	B	令和元年度は蔚山市(ジョナ小)の選手16名サッカー協会役員等総勢27名が新潟市を訪問しサッカー交流を行った。	3	今後も相互交流を続けることを両協会が確認した。ただし大会日程調整の関係で令和2年は選手交流は行わず両国役員の打ち合わせ会議を蔚山市で開催することになった。 ※平成12年から始め、令和元年度で17回目を迎えた。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和元年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。		
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った E・・・未着手	1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						
			R1数値目標	R1実績	(参考)H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)				
1	目指せオリンピック! 医科学サポート事業 (スポーツ協会)	にいがたスーパージュニア育成事業の実施にあわせてスポーツトレーナー等を派遣し、傷害予防やコンディショニング調整を目的に競技力の向上を図った。	スポーツトレーナー派遣競技団体数 2団体(柔道・ボクシング)	スポーツトレーナー派遣競技団体数 3団体(柔道・ボクシング・バドミントン)	スポーツトレーナー派遣競技団体数 3団体(柔道・ボクシング・バドミントン)	B	にいがたスーパージュニア育成事業の対象である3団体を対象として事業を実施し、傷害予防・コンディショニング調整等により競技力向上に寄与した。 また、コンディショニングの調整についてはスポーツトレーナーのほか県医科学センターを活用しながら更なる競技力向上を図っている。	1	競技団体とのヒアリングを実施して課題や現状について共有を図りながら、オリンピックや国際大会等に出場・活躍する選手を継続的に輩出していくため強化指定選手を医科学面で更にサポートしていく。
			750	750	671				
2	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図る。	システム利用件数 30,000件	システム利用件数 29,393件	システム利用件数 29,667件	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月から施設は休止となったため、実績は落ち込んでいる。	2	市民の利便性のため、施設予約システムの運用を継続し、周知に努める。
			0	0	0				
3	スポーツ振興課 ホームページ	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行う。	アクセス数 1,000,000件	アクセス数 約910,000件	アクセス数 約945,000件	C	昨年度実績と比較すると、減少傾向ではあるものの、若干持ち直している。時季に偏りはなかった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため施設が休止となった3月はアクセスが激増した。	2	新型コロナでわかったとおり、利用制限などにかかる情報は、迅速かつ適切に提供していく。 シティマラソンやヒルクライムなどのイベントページへのアクセスが多いことから、情報の更新や充実に努める。
			0	0	0				